

安全データシート

作成日 2018年10月1日

1. 製品名及び会社情報

製品名	purino PINK GRAPEFRUIT & TEA
会社名	株式会社 栄光社
担当部門	開発部
住所	〒607-8141 京都市山科区東野北井ノ上町7-1
電話番号	075-591-1008
FAX番号	075-591-1003

2. 危険有害性の要約

GHS分類		
物理化学的危険性	引火性液体	区分3
健康に対する有害性		
急性毒性（経口）		区分5
急性毒性（経皮）		区分5
皮膚腐食性・刺激性		区分2
皮膚感作性		区分1
生殖細胞変異原性		区分1
生殖毒性		区分1
吸引性呼吸器有害性		区分1
眼に対する重篤な損傷/ 眼刺激性		区分2B
環境に対する有害性		
水性環境有害性（急性）		区分1
水性環境有害性（慢性）		区分1

※上記に記載の無い危険有害性は「分類対象外」または「分類できない」に分類される。

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

危険

引火性液体及び蒸気
 飲み込むと有害のおそれ（経口）
 皮膚に接触すると有害のおそれ（経皮）
 皮膚刺激
 アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
 遺伝性疾患のおそれ
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
 飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ
 眼刺激
 水生生物に非常に強い毒性
 長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

使用前にSDSをお読み下さい。
 熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。
 取扱後は手または接触部位をよく洗うこと。
 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
 気分が悪い時は、医師の診断／手当てを受けること。
 皮膚や衣服についた場合：多量の水と石鹸で洗うこと
 皮膚刺激が生じた場合医師の診断／手当てを受けること
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。
 眼の刺激が続く場合は医師の診断・手当てを受けること。
 換気の良い場所で保管すること。涼しいところにおくこと。
 内容物又は容器を、法令にしたがって適切に廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別
化学物名又は一般名
危険有害成分
組成成分名および含有量

混合物
液体芳香剤

成分名	CASNo.	含有量 (%)
2,6-ジ-ターシャリーブ-チル-4-クレゾール	128-37-0	0.3
エタノール	64-17-5	0-0.2

4. 応急処置

吸入した場合

新鮮な空気のある場所に移動させ安静にし、必要に応じて医師の診断を受ける。
体を毛布などで覆い、保温して安静を保つ。

皮膚に付着した場合

石鹸で十分洗浄後、清浄な水で洗い流す。
外観に変化がみられたり、痛みが続く場合はただちに医療措置を受ける手配をする。

目に入った場合

直ちに清浄な水で15分以上洗眼後、速やかに眼科医の診断を受ける。
コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り取り除いて洗浄する。

飲み込んだ場合

口をすすぎ、コップ1~2杯の水又は牛乳を飲ませて希釈する。
直ちに医師の処置を受ける。無理に吐かせてはならない。
被災者に意識のない場合には、口から何も与えてはならない。

5. 火災時の措置

消火剤
特有の消火方法

粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂

消火作業は可能な限り風上から行う。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入を禁止する。
周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入は避ける。
状況に応じて適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク）を着用する。

消火を行う者の保護

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具および緊急時措置
環境に対する注意事項
除去方法
二次対策の防止策

漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等着用する。
こぼれた場合は滑りやすいために注意する。
流出した製品が河川等に排出され、環境に影響を起ささないように注意する。
漏出したものを掬い取り、紙袋またはドラム等に回収する。
付近の着火源となるものを速やかに除くと共に、消火剤を準備する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い
技術的対策

取り扱いは換気の良い場所で行う。
取り扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。
皮膚、粘膜または着衣に触れたり、目に入らないようにする。
保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用する。
火気厳禁。電気機器類は防爆構造にするほか静電気、スパークなどによる着火源を生じないようにする。
取り扱う場合は、局所排気内または全体換気の設備のある場所で取り扱う。
設備は静電気対策を実施する。

局所排気・全体排気
安全取り扱い注意事項
保管

適切な保管条件
容器包装材料

換気のない冷暗所に保管する。
製品使用の容器に準ずる。

8. 暴露防止および保護措置

管理濃度・許容濃度

成分名	管理濃度	許容濃度	ACGIH-TLV
2,6-ジ-ターシャリーブ-チル-4-クレゾール	-	-	2mg/m ³
エタノール	-	-	1000ppm

設備対策
呼吸器の保護具
手の保護具
目の保護具
皮膚及び身体の保護具

取り扱い場所の近くに、眼の洗浄および身体洗浄のための設備を設置する。
通常の手扱いは特に必要ない。
保護手袋
保護眼鏡
保護服

9. 物理的および化学的性質

外観	液体
香気	特有の香気を有する。
引火点	データなし
爆発範囲	データなし
比重	データなし
溶解度	水に難溶
n-オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし

10. 安定性および反応性

安定性	通常の条件下では安定。
危険有害反応可能性	知られていない。
避けるべき条件	知られていない。
混蝕危険物質	強酸化剤、強還元性物質
危険有害な分解生成物	自己分解により 有害ガスを発生することはない。

11. 有害性情報

「2. 危険有害性の要約」の「健康に対する有害性」を参照願います。

12. 環境影響情報

「2. 危険有害性の要約」の「環境に対する有害性」を参照願います。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器・包装	廃棄においては関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

14. 輸送上の注意

国内法規制	
陸上規制情報	消防法、労働安全衛生法に定められた運送方法に従う。
海上規制情報	船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空規制情報	航空法に定められている輸送方法に従う。
特別な安全対策	転倒、落下等 粗暴な取り扱いをしない。 消防法、労働安全衛生法等の法令の定めることに従う。 消防法危険物の第一類及び第六類とは混載しない。

15. 適用法令

国内適用法令	
消防法	第4類第2石油類
労働安全衛生法	通知対象物質
化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）	非該当

16. その他の情報

主要参考文献とデータの出典
RIFM/FEMA database
Supplier

記載内容は入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。御使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願いいたします。また 特別な取り扱いをする場合には、新たに用途用法に適した安全対策を実施の上でご使用下さい。

安全データシート

作成日 2018年10月1日

1. 製品名及び会社情報

製品名	purino RELAX TIME
会社名	株式会社 栄光社
担当部門	開発部
住所	〒607-8141 京都市山科区東野北井ノ上町7-1
電話番号	075-591-1008
FAX番号	075-591-1003

2. 危険有害性の要約

GHS分類		
物理化学的危険性	引火性液体	区分3
健康に対する有害性		
急性毒性（経口）		区分5
急性毒性（経皮）		区分5
皮膚腐食性・刺激性		区分2
吸引性呼吸器有害性		区分1
眼に対する重篤な損傷/ 眼刺激性		区分2B
特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）		区分1
特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）		区分1
環境に対する有害性		
水性環境有害性（急性）		区分3

※上記に記載の無い危険有害性は「分類対象外」または「分類できない」に分類される。

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

危険

引火性液体及び蒸気
 飲み込むと有害のおそれ（経口）
 皮膚に接触すると有害のおそれ（経皮）
 皮膚刺激
 飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ
 眼刺激
 臓器の障害
 長期又は反復暴露による臓器の障害
 水生生物に有害

注意書き

【安全対策】

使用前にSDSをお読み下さい。
 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。
 取扱後は手または接触部位をよく洗うこと。
 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
 気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。
 皮膚や衣服についた場合：多量の水と石鹸で洗うこと
 皮膚刺激が生じた場合医師の診断/手当てを受けること
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。
 眼の刺激が続く場合は医師の診断・手当てを受けること。
 換気の良い場所で保管すること。涼しいところにおくこと。
 内容物又は容器を、法令にしたがって適切に廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別
化学物名又は一般名
危険有害成分
組成成分名および含有量

混合物
液体芳香剤

成分名	CASNo.	含有量 (%)
特記すべき有害成分は含有していない。		

4. 応急処置

吸入した場合

新鮮な空気のある場所に移動させ安静にし、必要に応じて医師の診断を受ける。
体を毛布などで覆い、保温して安静を保つ。

皮膚に付着した場合

石鹼で十分洗浄後、清浄な水で洗い流す。
外観に変化がみられたり、痛みが続く場合はただちに医療措置を受ける手配をする。

目に入った場合

直ちに清浄な水で15分以上洗眼後、速やかに眼科医の診断を受ける。
コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り取り除いて洗浄する。

飲み込んだ場合

口をすすぎ、コップ1~2杯の水又は牛乳を飲ませて希釈する。
直ちに医師の処置を受ける。無理に吐かせてはならない。
被災者に意識のない場合には、口から何も与えてはならない。

5. 火災時の措置

消火剤
特有の消火方法

粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂

消火を行う者の保護

消火作業は可能な限り風上から行う。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入を禁止する。
周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入は避ける。
状況に応じて適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具および緊急時措置
環境に対する注意事項
除去方法
二次対策の防止策

漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等着用する。
こぼれた場合は滑りやすいために注意する。
流出した製品が河川等に排出され、環境に影響を起ささないように注意する。
漏出したものを掬い取り、紙袋またはドラム等に回収する。
付近の着火源となるものを速やかに除くと共に、消火剤を準備する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い
技術的対策

取り扱いは換気の良い場所で行う。
取り扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。
皮膚、粘膜または着衣に触れたり、目に入らないようにする。
保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用する。
火気厳禁。電気機器類は防爆構造にするほか静電気、スパークなどによる着火源を生じないようにする。
取り扱う場合は、局所排気内または全体換気の設備のある場所で取り扱う。
設備は静電気対策を実施する。

局所排気・全体排気
安全取り扱い注意事項
保管

適切な保管条件
容器包装材料

換気の良い冷暗所に保管する。
製品使用の容器に準ずる。

8. 暴露防止および保護措置

管理濃度・許容濃度

成分名	管理濃度	許容濃度	ACGIH-TLV

設備対策
呼吸器の保護具
手の保護具
目の保護具
皮膚及び身体の保護具

取り扱い場所の近くに、眼の洗浄および身体洗浄のための設備を設置する。
通常の取り扱いでは特に必要ない。
保護手袋
保護眼鏡
保護服

9. 物理的および化学的性質

外観	液体
香気	特有の香気を有する。
引火点	データなし
爆発範囲	データなし
比重	データなし
溶解度	水に難溶
n-オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし

10. 安定性および反応性

安定性	通常の条件下では安定。
危険有害反応可能性	知られていない。
避けるべき条件	知られていない。
混蝕危険物質	強酸化剤、強還元性物質
危険有害な分解生成物	自己分解により 有害ガスを発生することはない。

11. 有害性情報

「2. 危険有害性の要約」の「健康に対する有害性」を参照願います。

12. 環境影響情報

「2. 危険有害性の要約」の「環境に対する有害性」を参照願います。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器・包装	廃棄においては関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

14. 輸送上の注意

国内法規制	
陸上規制情報	消防法、労働安全衛生法に定められた運送方法に従う。
海上規制情報	船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空規制情報	航空法に定められている輸送方法に従う。
特別な安全対策	転倒、落下等 粗暴な取り扱いをしない。 消防法、労働安全衛生法等の法令の定めることに従う。 消防法危険物の第一類及び第六類とは混載しない。

15. 適用法令

国内適用法令	
消防法	第4類第2石油類
労働安全衛生法	非該当
化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）	非該当

16. その他の情報

主要参考文献とデータの出典
RIFM/FEMA database
Supplier

記載内容は入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。御使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願いいたします。また 特別な取り扱いをする場合には、新たに用途用法に適した安全対策を実施の上でご使用下さい。